



※参考値出典：日本褥瘡学会 第3回（平成24年度）日本褥瘡学会実態調査委員会報告1 一般病院平均値

■ 患者個々の発生要因を見極めた褥瘡予防を実施

本指標は入院患者さんのうち入院中に発生したと推定される褥瘡（床ずれ）の推定発生率を示しております。データの集計方法は日本褥瘡学会の定める方法に順じて集計しており、荻窪病院に入院した時点で既に褥瘡を有していた患者さんでも新たに入院後に褥瘡を確認した場合は1件としています。

2016年度は前年度より1.09%数値は低下し参考値と比較しても0.47%低い数値となりました。

当院は急性期を担っており褥瘡が発生するリスクの高い方（高齢者等）が多く入院します。褥瘡を発生させないためには予防活動が重要であるため、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士で組織する「褥瘡対策委員会」や「栄養サポートチーム（NST）」と連携しながら患者さんへの回診を行うとともにケアを継続していきます。



褥瘡に関する院内研修の様子

多職種の職員を対象に褥瘡に関する勉強会を開催し予防知識や技術向上に努めています。